

Supported

by Unisys

東京ディズニーリゾート®編



オリエンタルランドの「ごみのリサイクル」

このコーナーでは、当社がスポンサーとして協力させていただいているお客様や団体の活動を紹介します。今回は、オリエンタルランドの「ごみのリサイクル」について、株式会社オリエンタルランドの菅佐原敏行様にお話を伺いました。

パーク内の各所に設置されたゴミ箱は「燃えるごみ」「ペットボトル」「水分」の3種類。

パーク内で出たごみの7割を「リサイクル」

るなど、ほぼ100%をリサイクルしています。

「たった3種類のごみ箱でリサイクル率が高まった理由」

現在、東京ディズニーリゾート内のごみには20数種類の分別基準がありますが、パーク内にはゲストの手をわずらわせないために「3種類のごみ箱」しかありません。

そこで、飲食施設では使い捨てではない陶磁器や金属などの食器を導入するなど、紙ごみ、プラスチックごみの発生抑制に努めています。さらにリサイクルしやすいようにごみの分別基準も細分化。段ボール、生ごみ、植栽ごみ、食用油など、それぞれ専門のお取引先に委託してリサイクルしています。

その結果、2008年度以降のリサイクル率は約70%を維持しており、なかでも生ごみは発電用途を開拓す

3種類のごみ箱は清掃担当のキャストが回収し、バックヤード（作業エリア）へ運び、そこで分別しています。例えば、パーク内の可燃のごみ箱は、キャストが定期的に回収用のカートに移して回収。作業場に移ってから分別をします。またフード施設でも、バックヤードで紙コップや紙容器、紙ナプキンなどを分けています。

さらに、ゲストの方々にごみの収集をしているという印象を残さないようにスピーディーな作業に努めています。

ご担当者の声



株式会社オリエンタルランド
運営本部
カスタディアル部
カスタディアルサポートグループ
チーフリーディングスタッフ

菅佐原 敏行 様

ゲストは、夢の世界を楽しむためにパークにいらっしゃいますので、ゲストによるごみの分別は最小限で済むように配慮しています。舞台裏で私たちがしっかり分別していますから、安心して楽しんでいてください。さらに今後はバックヤードでの分別精度を高め、資源回収量の向上につなげ、ごみの減量とリサイクルを一層推進していきます。

ごみもきちんと分ければ「資源」になります。バックヤードに運ばれたごみは、キャストが手作業で再分別します。

ゲストの安全に留意しながら、キャストがごみを回収用のカートに移して回収します。迅速に回収できるよう、ゴミ箱の袋はあらかじめ二重にかけておくなどの工夫がされています。